



加賀灯笼

加賀提灯

歴史と特色

提灯は松明(たいまつ)に代わる携帯用灯火具である。16世紀後半に篋提灯が作られ、17世紀(江戸時代初期)には現在のような火袋の折りたためる箱提灯が作られた。その後、ぶら提灯、高張り提灯、弓張り提灯、小田原提灯と種類も増え、用途も灯火用から祭礼用、観灯、装飾用と広がっていく。提灯の普及は江戸時代に安価な和ろうそくが生産されるようになったためでもある。金沢では、最盛期には60軒の提灯屋があったが、懐中電灯の普及、街灯の整備等のため激減した。現在は提灯と兼業した数少ない和傘職人が、祭礼用装飾用として製作している。加賀提灯は、竹ヒゴを1本1本切断して骨にしており、岐阜提灯等のように長い竹を螺旋状に巻いた提灯と異なるため、伸びが大きく、1本が切れても全部がはずれることがなく丈夫なことが特徴である。

历史和特色

在16世纪后半期，灯笼作为取代松明的携带用的灯具而制造出来。此后，广泛用于祭祀，装饰等处。在金泽，最繁盛的时期，有60家灯笼店。加贺的灯笼，与其它将长竹卷成螺旋状的灯笼不同，它使用了截成很短的竹篾作为骨架，因而伸展度很大而且很结实。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	祭礼用提灯、装飾用提灯(祭祀用灯笼、装饰用灯笼)
主な生産者(主要生产者)	五十嵐商店(五十嵐商店) 〒920-0903 金沢市博労町62 TEL (076) 231-7441



歴史と特色

水引は元来贈り物の飾りとして、主に祝事に用いられた。その語源は麻などを水に浸して皮をはぎ、ひもとしたことにあると言われ、紙の発達と同時に美しい水引ができたものと思われる。

江戸時代、武士や町人の頭にまげを結ぶ元結いとしても作られていた。現在は、材料の水引は県内で作られていないが、水引細工は技術も進歩し、特に慶事用の華やかな松竹梅や鶴・亀・宝船飾りなどが受け継がれている。また大正初期に、津田左右吉氏が屠蘇につける蝶からヒントを得て内裏びなを考案し、水引人形の基礎を作り、技法が津田家に伝えられている。この人形は、金沢の風土にあるわびさびの精神に通じる気品の高い人形として、高い評価を受けている。

历史和特色

花纸绳原来作为礼物的一种装饰，主要用于喜庆事时，与和纸共同发展起来。加贺花纸绳继承了喜庆事时用的华丽的松竹梅、龟、鹤和宝船的装饰。花纸绳人偶作为体现加贺文化的人偶受到很高的评价。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	内裏びな、芭蕉翁、婚礼用水引飾など (模拟天皇后装束的一对男女偶人、芭蕉翁、婚礼用花纸绳饰等)
主な生産者(主要生产者)	津田水引折型(津田花纸绳折型) 〒921-8031 金沢市野町1-1-36(金泽市野町1-1-36) TEL (076) 214-6363

加賀水引細工